

水の織りなす生活風景を巡るエリア

西谷町・東川島町



- 1 生活を守る帷子川分水路
かた びらがわ ぶん すいろ
- 2 子どもの笑顔が溢れる学校橋
- 3 Rice Field ほどがや☆元気村
- 4 街道と川の蛇行が作り出すミステリアスゾーン
だごう
東川島～富士山神社参道入口
- 5 喧騒をのがれてたたずむ正観寺
けんそう しょうかんじ
- 6 宝塔の碑文に歴史と哲学を感じる妙福寺
みょうふくじ
- 7 ツルツル川と梅の木
- 8 西谷町と富士山神社
ふ じ やま
- 9 生活空間の隣の農業専用地区
- 10 地産地消と地域のふれあい
- 11 先人から引き継いだ地元の西谷ネギ
- 12 終戦前後の小学生の^{けん ぶん ろく}見聞録

水の織りなす生活風景を巡るエリアマップ

① 帷子川分水路

→1 生活を守る帷子川分水路

② 学校橋

→2 子どもの笑顔が溢れる学校橋

③ ほどがや☆元気村

→3 Rice Field ほどがや☆元気村

④ 旧八王子街道道標

→4 街道と川の蛇行が作り出す
ミステリアスゾーン

⑤ 正観寺

→5 喧騒をのがれてたたずむ正観寺

⑥ 妙福寺

→6 宝塔の碑文に歴史と哲学を
感じる妙福寺

⑦ 梅の木交差点

→7 ツルツル川と梅の木

⑧ 西谷梅の木公園

→7 ツルツル川と梅の木

⑨ 富士山神社

→8 西谷町と富士山神社

⑩ 西谷の農業専用地区

→9 生活空間の隣の農業専用地区



生活を守る帷子川分水路

かたびら がわ ぶん すい ろ

エリアマップ①

旭区白根町一丁目に、帷子川分水路があります。この分水路は、帷子川流域に住む人々の生活を守っています。

帷子川では、昭和33年(1958年)に大きな災害を受けたことを契機に、本格的な川の改修工事が行われてきました。しかし、川の周辺に急激な都市化の波が押し寄せて市街化が進んだ結果、降った雨が短期間に集中して河川へ流入するようになり、大雨が降ると、この川は幾度となく水害に見舞われました。ところが、抜本的治水対策を講じるために川を再度拡幅することは沿川の状況から困難だったため、川の中流部からもう一つの川を分岐させる分水路で抜け道を作りました。それ以降、水害で悩まされることはほとんどなくなりました。



この分水路の付近は、水辺を好む生物たちの憩いの場となっています。季節によって水量が異なり、風景にも変化があります。生物たちを眺めることを楽しむ人々も多くいます。

参考文献:「帷子川分水路」(神奈川県県土整備局 横浜市下水道局発行)

語りべ: 小田部 礼奈さん



2

子どもの笑顔が溢れる学校橋

エリアマップ②

ほどがや語りべ集



通学路に架かるこの橋には、考える子どもの姿の銅像があります。学校に通う子どもたちは、この橋をみんなで楽しく渡っています。

学校橋近くの川沿いの道路の壁には、かわいらしい小学生の絵があります。図工の時間に描いた絵が焼き付けられたタイルが埋め込まれています。



まち全体に子どもが地域と関わっていけるような雰囲気を作られています。

語りべ：小田部 礼奈さん

水の織りなす生活風景を巡るエリア

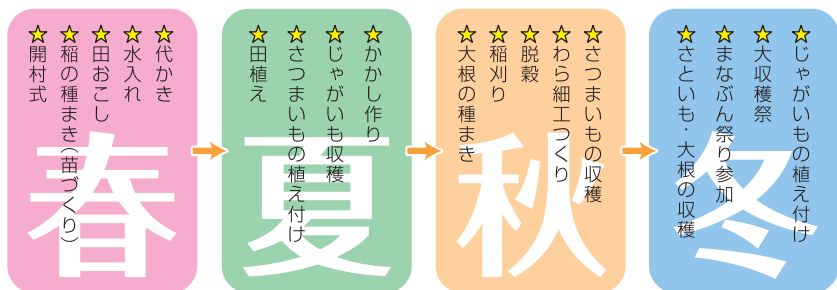
3

Rice Field ほどがや☆元気村

エリアマップ③

相鉄線西谷駅から徒歩7分の帷子川沿いに、保土ヶ谷区に唯一残る田んぼがあります。そこからは、子どもたちの歓声が聞こえてきます。2009年に開村した“ほどがや☆元気村”です。

保土ヶ谷区内の小学校4年生～6年生が、実行委員の指導のもと、伝統農法による田^{おこ}耕^{しろ}し、代^だか^こき、田^だ植^こえ、稲^だ刈^こり、脱^だ穀^こを体験し、農と食の大切さを学んでいます。そして12月には大収穫祭で餅つきを行い、みんなでお餅を食べます。



年間スケジュール



ほどがや語りべ集



水の織りなす生活風景を巡るエリア

3 Rice Field ほどがや ☆ 元気村

ほどがや☆元気村の周辺には緑があふれています。鶴ヶ峰から帷子川分水路、ほどがや☆元気村を経て下流まで、朝夕、多くの人が散歩しています。元気村入口で足を止め、田んぼに見入っている人も多く見かけます。

朝、田んぼと山の緑の匂いが自然と伝わり、さあ、1日が始まるぞ、という気持ちになります。

6月はホタルが乱舞します。田んぼと山の緑、これからも大切に見守りたいと思います。

ほどがや語りべ集



水の織りなす生活風景を巡るエリア



ほどがや☆元気村のホームページ
<http://www.hodogaya-links.com/genki/index.php>



語りべ：泉 俊郎さん

4

街道と川の蛇行が作り出すミステリアスゾーン 東川島～富士山神社参道入口

エリアマップ④

環状2号線と国道16号の交差する所は、東川島町に位置します。ここから国道16号は梅の木交差点まで、道幅が狭くなります。そのため、菅田川すげたがわ（通称ツルツル川）に架かる橋は片側1車線となり、交通渋滞情報で有名になりました。

旧八王子街道道標は東川島交差点から曲りくねった狭い旧道をちょっと入ったところにあり、一方に「至保土ヶ谷 鎌倉街道」、もう一方には「至八王子」と刻まれています。



旧八王子街道道標



ほどがや語りべ集



水の織りなす生活風景を巡るエリア

4

街道と川の蛇行が作り出すミステリアスゾーン 東川島～富士山神社参道入口

明治15年(1882年)の測量図によると、川島村とあります。明治43年(1910年)には西谷村とありますが、昭和15～20年(1945年)では上星川町と川島町となり、西谷の名が消えました。その後、西谷の名が復活するのは昭和35年(1960年)です。

国道16号は東川島交差点からのぼり坂になり、国道16号と旧道の間にあるNTTを過ぎると、梅ノ木交差点で、県道青砥上星川線(通称:山崎通り)に交わります。山崎通りは菅田川の上流に続き、松山、竹山というところから川が流れだして、梅の木を経てたびたび氾濫した帷子川に合流します。帷子川は度重なる改修工事やバイパス工事により、今は典型的な都市河川に姿を変えています。

梅の木交差点はちょうど扇の要に相当する位置です。そこには西谷梅の木公園があり、富士山神社の参道前です。

散策ルート

東川島町交差点→旧八王子街道道標→正観寺→寛政とある碑と地藏→急な坂→NTT→元禄とある碑→国道16号→妙福寺山門→妙福寺本堂→菅田川(ツルツル川)→梅の木交差点→梅の木公園→富士山参道入口



正観寺

旧小机領 三十三かんのんれいじょう観音霊場 第5番札所です。

小田原北条氏家臣矢上城主 中田加賀守が天正18年(1590年)小田原城落城の折り、討死しました。

子の中田藤左衛門が川島に住み、寛永2年(1625年)に父と一族の供養のために建立し、正観寺と号しました。現在は曹洞宗の寺で本尊しやうは聖観世音菩薩立像(秘仏)で、弘法大師作との言い伝えがあります。



ミステリアスな弁天洞

明治末期に寺は荒廃し、弁財洞も埋もれ、忘れ去られていました。大正のはじめ、縄を引きずったような蛇の跡があり、眼の悪かった中村源八の夢枕に弁財天が現れ、掘り起こして世に出してくれたらお前の眼を治してやろう、とのお告げがありました。そこでお告げの通り掘り起こすと彼の眼がよくなったとの言い伝えがあります。

六地藏と水子地藏 不思議な碑文

正観寺の山門には六地藏と隣り合わせで水子地藏があります。この地藏はノルウェー人南極探検家アムンセンの姪の供養のため、建立したと記されています。そう言えば昭和58年の第24次南極観測船ふじの乗員が、お参りに来たことを思い出しました。その時もらった色紙がわが家に残っています。



5

喧^{けん}噪^{そう}をのがれてたたずむ正^{しょう}観^{かん}寺^じ

I had the privilege of working with the Kataribe project while I was studying abroad in Japan. This project not only allowed me to explore parts of Hodogaya ward that I would not have on my own but also allowed me to gain insight on the differences in cultures. From a foreign perspective, Japan is beautiful but it also is vastly different from the culture I grew up in. I feel that I should mention that I cannot speak for everyone from America, I can only speak about what I found to be the most interesting and different aspects.

In Japan, Shinto shrines and Buddhist temples are everywhere, religion is so integrated into the culture that it has become one in the same. In America, religious figures or religious buildings cannot be found everywhere. I am impressed by these religious monuments, for not only their overall beauty but also their architecture.

I also found it amazing for much nature is a part of Japan. In America the suburbs are separated from the farm lands but in Japan it is completely different. Small farm areas can be found on the end of a neighborhood or across the road. I think it is important to incorporate farming into the community and to stress local community farming.

Overall I loved everything that I was able to see and learn about with the Kataribe project, it is an insight that I would have never gotten otherwise.

私は留学中、かたりべ事業に携わるという特別な経験をさせていただきました。そこで体験したことの中でもっとも興味深く、新鮮であったことを記します。

日本では、神社やお寺がどこにでもあり、宗教は同じ一つの文化として統合されています。

アメリカでは、宗教的な像や宗教建造物はどこにでも見つけられるわけではありません。私は日本の神社などについて全体的な美しさだけでなく、建築様式にも感銘を受けました。

アメリカでは、都心部が農地と分離されていますが、日本では小さい農地が住宅に隣接しています。私はこの経験を通じて、コミュニティに農業を融合させることと、地域の農業を重視することが重要だと認識しました。



語りべ：マーセラ モラレスさん

6

宝塔の碑文に歴史と哲学を感じる妙福寺

みょう ふく じ

エリアマップ⑥

妙福寺

みのぶさん くおんじ
身延山久遠寺を総本山とする日蓮宗の寺院です。延宝2年4月15日（1674年）開山しました。本堂には「星川山」、せいせんざん由緒ある仏教寺院です。境内地は約1万坪あり、横浜の著名人も眠っています。境内は広く、日本の原風景が見渡せます。

以前留学生を車に乗せ、境内を案内したことがあります。彼らには、日本庭園（瑞雲という）が興味深く、池の鯉や水の流れる音に日本情緒を感じているようでした。奥には防空壕の跡があります。



寺号碑

山門の右側には、立教開祖750年を慶賀して元日蓮宗管長第81代池上本門寺貫首筆の立派な黒御影の寺号碑が堂々と立っており、ひときわ目を引きま



宝塔

山門の左側には、古い宝塔が立っています。碑文には「以法守為主生死不苦」とあります。“法守を以って、主た為れば、生死苦しからず。”歴史と哲学を感じます。座の部分には創建以来の苦難の歴史が刻まれています。

山門から本堂の間にも歴史を感じる碑があるので、歴史年表と照らし合わせれば、意外な発見に出会えるかもしれません。

語りべ：秋本 修志さん



7

ツルツル川と梅の木

ほどがや語りべ集

ツルツル川

すげ た がわ
菅田川（通称：ツルツル川）
横の梅の木幼稚園のあるあたりは、昔岩盤がむき出しになっていて、子ども達はそこで遊び、農家は出荷する大根や野菜を洗って、市場に運んで行ったそうです。



エリアマップ⑦

梅の木交差点

国道16号を挟んで、保土ケ谷消防署西谷出張所があります。ここではレンジャー訓練が毎日行われ、隊員が綱を張り、救出訓練の綱渡りをよくしています。運が良ければ気合の入った訓練がのぞけるかもしれません。



エリアマップ⑦

西谷梅の木公園

れん が
煉瓦建てのビルを曲がると、すぐに梅の木公園があります。

地元の有志が梅や桜の木を植えており、町内会で時々、防災訓練も行っています。

通称山崎通りを挟んで、富士山神社入口があります。



エリアマップ⑧



水の織りなす生活風景を巡るエリア

語りべ：秋本 修志さん

西谷町と富士山神社

エリアマップ⑨

西谷町は、昭和35年(1960年)まで保土ヶ谷区上星川上町と称し、神社は上星川下町にある杉山神社が氏神様でした。町の真ん中に川島町が挟まり、お祭りにはお神輿みこしが川島町を通らなければならず不便でした。



富士山神社 鳥居



本殿

西谷町が誕生したのを機に、昭和36年(1961年)1月に杉山神社を分社創建することになりました。国道16号脇には、昔から小さな塚と社と、近くに浅間神社碑等があり、江戸時代中期から富士を霊峰れいほうとして、登拝する富士信仰が広まり、各地に富士講が組織され、その流れでこの地にもミニ富士が造られ、これをフジヤマと呼んでいました。



富士塚



浅間神社碑(富士講社)



8

西谷町と富士山神社

ふ し やま

神社の土地は国村敬太郎氏から無償寄贈をうけ、町民が敷地造成工事を行い、現在の境内となり、杉山神社境内にあった、山王社、大六天社を移管し当神社末社とし、浅間神社碑他を合祀し、同年9月に富士山神社と名称し遷座しました。

一方、現塚の周辺からは、槍の穂先等が出土したと語り伝えられて富士山一族の墳墓の一部ではないかとも言われています。

富士山神社は、日本武尊、五十猛命、木花咲耶姫命の三神を祭神とし、大六天社、山王社、浅間神社、小御嶽神社、歳神を境内祠として合祀し、例大祭、歳旦祭を執行し、近隣住民の尊崇を集めて現在に至っております。

当神社境内からの眺めが素晴らしく、大山丹沢の後ろに聳える富士山、足下には新幹線と絵になる風景※です。元旦には神社参拝と初日の出、初富士山の見学者も多くお見えになっています。

※「上新地区歴史探訪エリア 12 富士山ビューポイント」参照



歴代先達之碑



社地奉納主 国村敬太郎殿
昭和34年7月23日

語りべ：綿貫 仁さん



生活空間の隣の農業専用地区

エリアマップ⑩

西谷は湧水を利用した農業が昔から続いている地域です。

相鉄線西谷駅から北側に10分ほど歩いた辺りは、都市農業の振興と優良な農地の保全を目的とした農業専用地区に指定されています。25.2haの広さの土地でネギやキャベツ、ジャガイモ、ホウレンソウなどが栽培されています。



イラスト：河合 康子さん



9

生活空間の隣の農業専用地区

農業専用地区の一带は農村の風景が残っています。

歩いていると農作業をしている地元の人とすれ違うことがしばしばあり、どこか懐かしい感じのする場所でもあります。



ほ
ど
が
や
語
り
べ
集



水
の
織
り
な
す
生
活
風
景
を
巡
る
エ
リ
ア

語りべ：中山 智仁さん

10

地産地消と地域のふれあい

西谷の農業専用地区周辺には、農家の方の直売所があちこちにあり、採れたてで新鮮な野菜を求めて保土ヶ谷区外からも買い物客が訪れます。

お店に行ってみたところ、野菜だけでなくブルーベリーも店頭に並んでいました。地元の人に聞いた話によると、最近では西谷の一带でブルーベリーの栽培が流行っているそうです。



■各直売所の情報は以下にも掲載されています。

- ・「ほどがや語りべ集 星川・岩崎エリア編」にぎわい商店街エリア⑥
ほどがやのおいしい野菜を食べよう
- ・「ほどがや語りべ集 今井・仏向エリア編」農と食と歴史の仏向エリア⑥
とれたて！保土ヶ谷産のおいしい実り
- ・横浜ほどがや農産物直売所マップ

語りべ：中山 智仁さん



先人から引き継いだ地元の西谷ネギ

「種は農家の命。この味が好きだからずっと残していきたい。」
そうおっしゃる白井 茂さんに、西谷ネギについてお話を伺いました。

1960年代、市場で見つけた良質のネギ（根元が分かれ柔らかい）を先代が千葉まで探しに行ったのが始まり。生産地元のタネ屋で購入し、西谷で栽培を始めました。その後は自分で種をとり、種まき・収穫と、2年近くかけて栽培し、4月上旬に収穫します。

ネギめたは最高に美味しいですよ。



西谷ネギを栽培する白井 茂さん

白井さんのお話から、栽培を継続していくことのご苦労と西谷ネギへの情熱を感じました。



直売所は年内無休（月・水・金）、午前8時から売り切れまで。

電話でのお取り置きも可能。

語りべ：渡邊 廣子さん



～終戦前の学童たち～

平成27年（2015年）は大東亜戦争終戦70年、当時を知る人も少なくなり、戦争時の苦しみも忘れられつつあります。私は川島国民学校4年生でした。

学校では、玄関に天皇皇后両陛下の御真影ごしんえいが飾られ、登下校時には最敬礼をして通っていました。高等科の生徒は、校庭で藁人形わらを敵兵と見立てて竹槍たけやりの稽古をしたり、勤労奉仕をしたりしていました。初等科の生徒は、空襲警戒警報くうしゅうけいがいけいほうが鳴れば、何時敵機に襲われるかも知れない中、道草も出来ず飛ぶように帰りました。毎日が飛来する米軍機に一喜一憂し、遊ぶこともままならない時代でした。

街中の学校は学童疎開がくどう そかいで親元を離れて地方に避難しましたが、わが校は近くの神社やお寺に避難し、屋根もない境内に机や椅子を運んで1年生から6年生まで一緒に勉強しました。

西谷浄水場付近上空



国土地理院所蔵
(1946年3月9日米軍による撮影)



横浜市所蔵
(2015年1月横浜市による撮影)



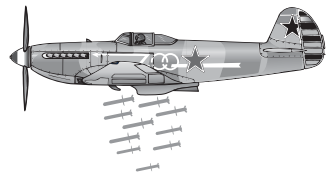
～西谷町の空襲～

横浜の大空襲は昭和20年（1945年）5月29日と言われていますが、B29の爆撃が連日繰り返され、市街地は無差別に焼かれていたので、私にはどの時が横浜空襲の日だったのか定かではありません。

敵機の攻撃目標は、西谷浄水場と火薬・爆弾工場でした。西谷町は弾薬工場（現レックスハイツマンション）が機銃掃射を受け、近隣住宅も被弾しました。私も機銃掃射を受けました。戦闘機が低空で前方から来たのが見えた瞬間、脇1mのところ
きじゅうそうしゃに土煙が上がりました。一瞬の出来事で生死など考える間もなかったのですが、後で恐怖を感じました。

ラジオから空襲警報が発令がされると、サイレンの音、上空をB29が通過する爆音、高射砲の音が鳴り響き、静かな夜も一変しました。

家では裸電球の笠に黒の布袋を被せて光が外に漏れないようにし、庭先の防空壕ぼうくうこうに逃げ込んで膝を抱えるように息を凝らしていました。爆弾の衝撃波しょうげきはで防空壕の壁土がバラバラと崩れ落ちる音を聞き、泣きさけぶ弟達をなだめながら過ごす恐怖の時間。やがて静かになり、外の冷たい空気を吸いながら近所の無事を確認してホッとします。そんなことが昼も夜も続いたのでした。



～終戦前の食糧事情～

終戦前年頃から食糧事情は次第に悪化しました。米は軍隊に
きようしゆつ 供出させられ、我々は麦、コウリヤン、粟、カボチャ、馬鈴薯、
ばれいしょ どんぐりの粉等、時には蒸し芋ばかりの日もあり、米など食べ
られませんでした。肉類はなく、干し魚も時にはありましたが、
殆ど根菜、野菜類であったと記憶しています。

父は出征していましたので、母が庭先を開墾して麦やさつま
かいこん 芋等をつくり、私も学校から帰れば百姓仕事を手伝いました。
町内は“向こう三軒両隣”と近所が互いに物を分け合って苦し
い時代を助け合いました。

現在では家畜の餌であるコウリヤンや米糠などで生きのびる
事ができたのです。戦争とは生きる事の苦しみでもあります。
私はこの時期に食べ過ぎたからなのか、さつま芋、馬鈴薯、カ
ボチャは余り好きではありません。



～終戦後の状況～

終戦の日、天皇陛下が何かを話されるというので、ラジオの前に正座し耳をそばだてていました。音声がかすれて聞き取れませんでした。誰云うとなく戦争は終わったとの声が聞こえました。皆死を覚悟した日々だったので、喜んで良いのか敗戦を悲しんでよいのか判りませんでした。

学校では、教科書の軍国主義、非民主主義的な記載箇所を墨で黒く塗りつぶして使用していました。その結果、修身（今の道徳のような科目）の教科書は3分の1が黒くなりました。また、衛生面から生徒はシラミ退治のために頭からDDT（殺虫剤の一種）をかけられて真っ白になりました。

“俺の命で日本を守る”と意気込んでいた若い飛行士が敗戦を知って飛行機を松林に落下させたり、駐留していた米兵も軍用車の屋根に機関銃を据え付けていたり、戦後しばらくは緊張状態が続いていました。

思えば苦しい時代でしたが、現在を生きている事の幸せを感じています。

